



静脩

1969年 5月

Vol. 6, No. 1

The Kyoto University Library Bulletin

図 書 館 の 活 用

林 千 博

私のような年頃になると図書館で本を読むことが次第に少くなった。時間をかけて読む本は自分の部屋に借出し、雑誌も必要なところだけ複写して読んだりするので、図書室では文献の探索か、精々その内容のあらましを見る程度である。それも教室の図書室に行く場合が多く、本部の図書館には精々年に二、三回読書以外の用事で行く位である。その様な私がこの静脩の巻頭言を書くのは誠に烏滸がましいと気が引ける。

最近教室に保管してある図書以外の書籍や特に雑誌を借りたいと思うことが多く、このようにとき大略の見当をつけて他教室や他部局を訪れることがあったので、何か便利な探し方はないものかと久し振りに本部の図書館を訪ねたところ、人文、自然科学の雑誌目録等もあることはあったが、あまり新しくない。館員さんの説明では、人手は殖えないのに図書の数は年々膨張する一方で、仲々整理が追付きませんとの誠にもっともお話だった。そして私が電気の先生なら電子計算機で迅速に整理するように出来ませんかと逆に問われる始末。電子計算機を使うと何年もかかるような仕事がすぐに出来てしまうと簡単に言う人があるようで誤解をまねくが、そう旨く行かない場合も多い。例えば近ごろ流行のパターン認識なども計算機としては不得手の分野である。例えば乳呑児も容易に出来る母親の顔の見分けも、計算機では仲々出来そうにない。書類を整理して自動的にカードを作るといような仕事も計算機にとっては仲々難しいのであって、このような情報の処理には随分大掛りな準備を必要とすると思う。

学生諸君の図書館の利用もかなり盛んになって来たが、未だ改善の余地があると思う。専門教育を2ヶ年に詰込む結果、例えば三回生では殆んど毎日朝8時から午後5時まで講義・実験がある。ところで教室の図書室は朝9時より午後5時までである。これでは図書室を利用せよと言う方が無理で、新制大学の教科配当、図書室の勤務条件等に抜本的な対策が必要と思う。

以上のことに若干関係があると思われるが、本部の附属図書館と各教室に設置された図書室との中間の規模を持つ学部図書館を設置するのも一案と思う。この様な図書館は既にかなりの学部で実現しているが、私の所属する工学部には所謂工学図書館と称するものがない。

工学関係でも比較的各教室に共通した性格の書籍・雑誌をまとめてこの様な図書館を作ることは、予算・登録等の事務手続の点より考えても、また各教室が重複して購入している図書の整理・統合にも役立つと思うので、一考すべきではなかろうか。

図書館の運営方法の検討とか、あるいはまた外国の大学の図書館の優れている点を見習うべきであるということは従来からよく言われており、これらの点について改善して行くことはもとより結構なことであるが、一番大切なことは私達大学人が落付いて勉学に打込む習慣と環境を持つことである。この点最近の学内事情は誠に遺憾であり、私達は落付いて勉学に専心出来る態勢の確保に努力すべきであると思う。

(工学部教授)